

令和元年度 全国学力・学習状況調査における高萩市の結果

高萩市教育委員会

1 はじめに

全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、次の3点をねらいとして平成19年から毎年実施されています。

- ① 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ③ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

これまでの調査を通して、児童生徒の学力の定着・向上には、学校での教科指導の充実はもとより、子どもたちの生活習慣や学習環境も大きく関わっていることが明確になりました。

高萩市教育委員会では、学校、家庭、地域が互いに連携し、学習指導、家庭教育、地域とともにある学校づくりを通し、健やかな萩っ子の育成を推進していきたいと考えます。

このことから、以下のねらいで全国学力・学習状況調査結果を報告するものであります。

健やかな萩っ子の育成について、学校と家庭・地域が一体となった教育改善につなげるため保護者及び地域に向けて、高萩市の全国学力・学習状況調査の結果を報告する。

なお、今回の結果については、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることを付け加えます。

2 高萩市の全国学力調査の結果、傾向・課題・今後の対策

対象学年	小学校6学年		中学校3学年		
調査種別 平均 正答率	国語	算数	国語	数学	英語
高萩市	62.0	63.0	71.0	52.0	54.0
全国	63.8	66.6	72.8	59.8	56.0
茨城県	66.6	66.0	75.0	60.0	56.0
全国との差	-1.8	-3.6	-1.8	-7.8	-2.0
茨城県との差	-4.6	-3.0	-4.0	-8.0	-2.0

※令和元年度から「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式で実施

※令和元年度から英語の調査を追加。英語は3年に1度程度実施

(1) 傾向と課題

【小学校国語】

- 「情報を相手にわかりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える」ことや「図表やグラフなどを用いた目的を捉える」ことを見る問題など『書くこと』の領域では、全国平均正答率を上回る好結果を残すことができた。
- 「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」ことを見る問題では、3問中2問が全国平均正答率を大きく下回ったことから、漢字の定着が十分に図られていないことが明らかとなった。
- 「文と文との意味のつながりを考えながら接続語を使って内容を分けて書く」ことを見る問題では、全国平均正答率を6.3ポイント下回るなど、言語についての知識や理解を問う問題で課題が見られた。

<指導にあたって>

- ・漢字を単独で覚えるだけでなく、文の中で正しく使えることを意識した学習活動を展開する。特に、同音異義語や同訓異字について正しく使い分けができるようにする。
- ・文章を読むときに、接続語に着目して文と文のつながりを考えたり、指示語に着目して内容を深く読みとったりできるようにする。

【小学校算数】

- 「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる」ことを見る問題では、全国平均正答率を17.0ポイント上回っていることから、四則計算の技能などは定着していることがわかった。
- 「示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる」ことを見る問題で全国平均正答率を12.7ポイント、「示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる」ことを見る問題で9.1ポイント下回り、数学的な考え方を問う問題で課題が見られた。

<指導にあたって>

- ・図形と式を関連付けて、式や数の表す対象を明確にしたり、式の意味を説明したりすることができるようにする。日常生活の中で生じた問題の解決のために、多くの情報の中から必要な数量を見だし、解決の方法の見通しを立て、筋道を立てて考えるようにすることが大切である。また、乗法が用いられる実際の場面を通して乗法の意味について理解できるようにする。

【中学校国語】

- 「書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する」ことや「伝えたい事柄について根拠を明確にして書く」ことを見る問題など『書くこと』の領域では、全国平均正答率を上回る好結果を残すことができた。
- 「封筒の書き方を理解して書く」ことを見る問題では、全国平均正答率を8.4ポイント下回っていることから、封筒やはがきの表書きなど日常生活で活用する頻度が低い技能について定着が不十分であることがわかった。
- 「話合いの課題や方向を捉えて自分の考えをもつ」ことを見る問題では、全国平均正答率を7.0ポイ

ント下回っており、『話すこと・聞くこと』の領域で課題があることがわかった。

<指導にあたって>

- ・封筒やはがきの表書き、手紙の書き方などについては再度確認するとともに、定期的に授業でも取り上げ、定着が図れるように配慮する。その際も、ただ単に形式を確認するのではなく、実際に手紙やはがきを書く必要のある題材を設定するなど工夫する。
- ・話合いの学習では、自分の考えを整理しまとめる時間を十分に確保する。また、日常の授業でもグループやペアによる学習活動を多く取り入れ、自分の考えを整理し表現する機会を確保する。

【中学校数学】

- 「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」ことを見る問題で全国平均正答率を1.9ポイント、「グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができる」ことを見る問題で3.9ポイント、全国平均正答率を上回った。
- 「資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる」ことを見る問題で全国平均正答率を19.4ポイント下回ったことから、最頻値をはじめ、代表値についての理解が不十分であることがわかった。
- 「反比例の表から、xとyの関係を式で表すことができる」ことを見る問題では、全国平均正答率を16.8ポイント下回っていることから関数に関して苦手意識をもっている生徒が多いことがわかった。

<指導にあたって>

- ・ヒストグラムや代表値の必要性と意味を理解することが必要である。平均値、中央値（メジアン）、最頻値（モード）の違いを理解し、データの全体分布を確認した上で代表値を用いることにする。

また、表からxとyの関係を見いだす方法を理解し、反比例の式による表現が $y = \frac{a}{x}$ で表されることの理解を深めることが大切である。

【中学校英語】

- 「まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる」ことを見る問題や「教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる」ことを見る問題など、『聞くこと』については全国平均上回っていることがわかる。
- 「書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる」ことを見る問題では、全国平均正答率を4.0ポイント下回った。また、正答率も6.0%と低く、定着していないことがわかった。
- 「一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる」ことを見る問題では、13.5ポイント、「一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる」ことを見る問題では全国平均正答率を12.8ポイント下回っており、『書くこと』の領域で課題が多いことがわかった。

<指導にあたって>

- ・話の内容や書き手の意見などについて感想を述べたり、賛否やその理由を示したりする活動を授業の中

で行うことが大切である。これは、学習段階に応じて、既習表現を用いて読み手としての感想や意見、賛否及びその理由を表現させることであり、話の内容や書き手の意見などを適切に理解することが前提となる。このように、目的をもって読んだり、読んだ後に感想等を表現し合ったりする活動を計画的・系統的に行わせることが大切である。また、基本的な語や文法事項等を理解して、正しく文を書くためには、1人称、2人称、3人称と多様な主語を用いたり、現在や過去など時制を変えたりと、複数の場面設定による英作文を繰り返し行うことが欠かせない。

(2) 今後の対策

【国語科教育充実のために】

- 国語科教育の充実のため、計画訪問や要請訪問の際に、次のような内容で助言を行っていく。
 - ・さまざまな方法で児童生徒の実態を把握し、実態に合った学習内容や効果的な手立てについて工夫すること。
 - ・教科書の内容の読み取りに終始せず、「付けたい力」を明確にした授業を展開すること。また、振り返りの時間を十分確保し、児童生徒が「付けたい力」を意識した振り返りができるようにすること。
 - ・学習課題の設定方法を工夫したり、単元を通した課題解決学習を設定したりするなどして、児童生徒が主体的に学習に取り組めるよう工夫すること。
- 「みんなにすすめたい一冊の本推進事業」における取組や、学校図書館の環境整備等を通して、児童生徒の読書に対する関心を高めるとともに、読む力を向上させることや語彙を増やすことにつなげていく。

【算数・数学科教育の充実のために】

- 算数・数学教育の充実のため、高萩市教育研究会（算数・数学研究部）と連携し、授業改善に向けての研修会を引き続き実施する。
 - ・児童生徒の実態把握に努め、内容の系統性をおさえ、ねらいを明確にした授業を展開すること。
 - ・適用問題に取り組む時間を最低でも10分は確保し、知識・技能の確実な定着・習得に努めること。
 - ・根拠を明らかにして、説明したり伝え合ったりする学び合いのある授業を展開すること。
 - ・学習状況の評価を児童生徒の学習や教師の指導の改善に活かすこと。
- 全国学力・学習状況調査の問題でねらう児童生徒に身に付けさせたい算数・数学の学力について把握し、授業や家庭学習における過去問題への取組を通し、補充指導に努めるよう助言する。

【外国語（英語）科教育充実のために】

- 外国語（英語）教育の充実のため、計画訪問や要請訪問の際に、次のような内容で助言を行っていく。
 - ・生徒の言語活動を中心とした授業づくりを工夫すること。
 - ・技能統合型の活動及びパフォーマンス評価を積極的に実施すること。
 - ・「使いながら身に付く」という視点に立ち、生徒が英語を使いたくなるような場面設定や指導を工夫すること。
 - ・指導者が自ら英語を使うロールモデルとなり、授業を実際のコミュニケーションの場とすること。

3 児童生徒質問紙から見える傾向 ※学習に関する質問を抜粋

1 家で、自分で計画を立てて勉強することができますか。

A：あてはまる B：どちらかといえば当てはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない
E：その他 F：無回答

	【小学校】						【中学校】					
	A	B	C	D	E	F	A	B	C	D	E	F
高萩市	31.2	48.3	18.5	2.0	0.0	0.0	18.8	41.3	30.3	9.2	0.0	0.4
茨城県	37.5	41.8	17.5	3.2	0.0	0.0	17.1	39.6	33.8	9.4	0.0	0.1
全 国	33.1	38.4	23.0	5.5	0.0	0.0	14.9	35.5	37.3	12.3	0.0	0.0

2 学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。

A：3時間以上 B：2時間以上3時間より少ない C：1時間以上2時間より少ない
D：30分以上1時間より少ない E：30分より少ない F：全くしない（※A～F以外に無回答もあり）

	【小学校】						【中学校】					
	A	B	C	D	E	F	A	B	C	D	E	F
高萩市	4.4	14.1	53.2	24.4	3.9	0.0	4.1	13.3	49.5	24.3	5.5	2.8
茨城県	8.7	16.3	44.4	24.9	4.8	0.8	8.1	25.4	37.4	18.7	7.6	2.7
全 国	12.4	16.9	36.8	24.1	7.6	2.3	9.9	25.6	34.3	17.2	8.4	4.4

3 学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。

A：2時間以上 B：1時間以上2時間より少ない C：30分以上1時間より少ない
D：10分以上30分より少ない E：10分より少ない F：全くしない（※A～F以外に無回答もあり）

	【小学校】						【中学校】					
	A	B	C	D	E	F	A	B	C	D	E	F
高萩市	7.8	9.8	22.0	31.2	14.1	15.1	4.6	12.4	14.7	21.6	13.3	33.5
茨城県	6.6	11.2	23.3	28.2	14.8	15.8	4.7	7.8	15.4	26.0	14.9	31.4
全 国	7.0	11.3	21.5	25.9	15.6	18.7	4.8	7.6	14.6	23.4	14.8	34.8

4 国語の勉強は好きですか。

A：あてはまる B：どちらかといえば当てはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない
E：その他 F：無回答

	【小学校】						【中学校】					
	A	B	C	D	E	F	A	B	C	D	E	F
高萩市	30.7	41.5	20.5	7.3	0.0	0.0	27.5	42.7	22.5	6.4	0.0	0.9
茨城県	27.9	40.5	22.5	9.1	0.0	0.0	26.4	39.1	24.4	10.0	0.0	0.1
全 国	26.5	37.7	24.3	11.5	0.0	0.0	24.6	37.1	26.4	11.8	0.0	0.1

5 算数・数学の勉強は好きですか。

A：あてはまる B：どちらかといえば当てはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない
E：その他 F：無回答

	【小学校】						【中学校】					
	A	B	C	D	E	F	A	B	C	D	E	F
高萩市	45.9	25.4	18.5	10.2	0.0	0.0	18.3	27.5	28.0	26.2	0.0	0.0
茨城県	38.3	28.7	20.2	12.7	0.0	0.1	29.4	27.2	25.4	17.9	0.0	0.1
全 国	40.6	28.0	18.7	12.7	0.0	0.0	30.7	27.2	23.9	18.1	0.0	0.1

6 英語の勉強は好きですか。

A：あてはまる B：どちらかといえば当てはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない
E：その他 F：無回答

	【小学校】						【中学校】					
	A	B	C	D	E	F	A	B	C	D	E	F
高萩市	/						26.6	28.0	22.5	22.9	0.0	0.0
茨城県							29.1	28.6	24.9	17.3	0.0	0.1
全 国							29.0	27.0	24.1	19.8	0.0	0.1

○自ら計画的に家庭学習に取り組むことができる児童生徒（小6・中3）の割合は全国平均と比べて高く、家庭学習の習慣化は図られていると言える。しかし、学習時間という点でいうと、小学6年生と中学3年生の学習時間に違いがなく、中学生の学習時間としては十分とは言えない。中学生に対しては、まずは、1日当たりの学習時間を増やすこと、小学生に対しては、学習内容や学習方法について改善を加えることなどを助言し、成果につながるようにしていきたい。

(1 2)

○読書に意欲的に取り組む児童生徒（小6・中3）の割合は、全国平均と同様、または高い傾向が見られる。しかし、中学生になると3割以上が「本を全く読まない」と答えており改善が必要である。本や新聞を読むことには、語彙を増やす、言語感覚を磨く、表現力を高めるなど多くの効果がある。今後も読書活動の推進に力を入れていきたい。

(3)

○3教科（国語、算数・数学、英語）に対する意欲を問う質問では、特に、算数・数学において課題が明らかになった。小学校6年生は、約7割の児童が算数の勉強に対して、「好き（どちらかというとき）」と答えているのに対し、中学校3年生は、5割を切っている。意欲の低下が平均正答率の低下につながっていると考えられるので、児童生徒の意欲を高める指導の在り方について研修を深めていきたい。

(4~6)